

# ひょうたん島通信

大槌発! 第12回

岩手県大槌町の大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センターのすぐ目の前に、蓬莱島という小さな島があります。井上ひさしの人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルともされるこの島は、「ひょうたん島」の愛称で大槌町の人々に親しまれてきました。ひょうたん島から大槌町の復興、そして地域とともに復旧に向けて歩む沿岸センターの様子をお届けします。

## 灯台の灯りに祈りを込めて

**岩間 みな子** 大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター臨時事務員

大槌に生まれ育った私は、沿岸センターに勤めて二十数年になります。あらためて長い間お世話になったことを感謝いたします。縁あって職員として働くこととなり、採用のお電話をいただいたときに大変感激したことを今でも思い出します。

二十数年のセンターの思い出はたくさんあり、思い起こせば色々よみがってきます。国内外からの研究者や学生さんたち数多くの方々とのおふれあい、ある時は自宅での食事会・お茶会など、昨日のことのように思い出されます。その当時の院生さんには、まだ小さかった子どもたちが勉強を教わったり研究の様子を見せていただいたりもしました（将来的に役にたつかどうかは疑問ですが（笑））。さらに、センターの温泉旅行やボーリング大会など、今思えば懐かしさでいっぱいになります。特に、当時のセンターの事務主任として大槌にいらした武井和男さんには大変よくいただきました。私の人生の中でのかけがえのない

日々です。

2年前の震災には、東大関係者の皆様方には多大なる御支援を頂き、この場をお借りしてお礼申し上げます。センターの皆が無事に避難できたことにも感謝します。

今回、津波で倒れたひょうたん島の灯台の新デザイン案が採用になりましたが、『学内広報』に載せていただけるとは夢にも思っていませんでした。身近にある島ですし思い入れもあり、震災で亡くなった方々に対してのせめてもの慰霊の気持ちを含め、ろうそくを型取って見たところ、なぜか幸運にも選ばれた次第です。この震災により、私の身内や親戚たち、親しかった友人知り合い、とくに娘の親友が産後間もなく赤ちゃん家族ともども5人いっしょに亡くなり、見つかりません。こんな残酷な出来事が現実起こったとはまだ信じられず、自分の命があったことに複雑な思いです。今はまだ、復興が進んでいるようには見えませ

んが、昔賑やかだった大槌の町並みを取り戻せるよう頑張っていきたいと、微力ながら祈る毎日です。



大津波で倒れたひょうたん島の灯台は、筆者の岩間さんのデザイン案により再建され、2012年12月13日に点灯式が行われました。

## かわべこらム

### 熱い思いと熱々のおそば

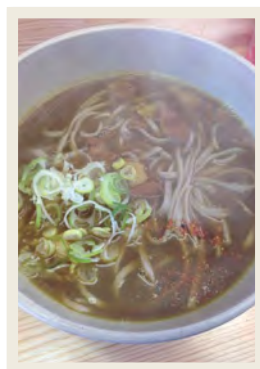
Light My Fire

大槌町では本格的な厳しい冬を迎えています。そんな季節に食べたくなるのが熱々のおそば。今回ご紹介するのは立ち食いそば店「大光（だいこう）そば」さんです。東京で会社員をされていたご主人の佐々木さんが地元の大槌町に戻り、昨年12月28日にお店をオープン。町役場が近い事もあり、お昼時には役場職員の方々を中心に大勢のお客さんと賑わいをみせます。6、7人でいっぱいになるような仮設プレハブの小さな店舗ですが、提供されるおそばはおつゆの出汁もよく

効いていて本格的。店主の熱い思いを感じ、熱々のおそばを食べれば大槌町の寒い冬も乗り切れる気がしてきます。



のぼり旗が目印



お店オススメのカレーそば

制作：大気海洋研究所広報室（内線：66430）